

## 諫早青少年自然の家 キャンプ Week ～夏休み親子でキャンプばしてみね！～

令和3年7月19日（月・祝）～ 31日（土）

【担当：小野 栄策】



### （1）事業の背景

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校が夏休みに入る7月下旬から8月上旬の学校宿泊団体の利用中止及び日程変更が相次ぎました。そのため、繁忙期であるこの期間の利用が例年に比べ大きく下回り、利用促進が大きな課題となりました。

また、本所では「キャンプをもっと身近なものにしたい」「キャンプで家族団らんのひと時を過ごしてほしい」と考え、令和元年10月から第3日曜日を当所の「キャンプの日」に制定し、家族の体験活動を推進しています。その効果から、家族を中心にキャンプを目的とした利用が少しずつ増加しています。

そこで、近年のキャンプブームや親子キャンプのニーズの増加に応えるとともに、子供たちに、自然体験活動の機会を提供するために、利用キャンセルが相次いだこの期間に親子でのキャンプ泊体験「キャンプ Week」を新たに企画、実施しました。

### （2）事業の趣旨

親子でのキャンプ体験を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。

### （3）目標

- ① 親子でのキャンプ体験を通して、普段以上に家族が会話する機会を増やす。
- ② 野外炊事やテント泊体験を通して、自然体験活動の楽しさを体感する。
- ③ 子供が活動する姿を見ることで、体験活動の重要性に気付く。

### （4）対象

幼児や小・中・高・大学生のいる家族 1日6家族まで（先着順）

### （5）事業の実施

#### ① 参加者

7月19日（月）～20日（火）	1家族（2名）
7月20日（火）～21日（水）	
7月21日（水）～22日（木）	4家族（12名）
7月22日（木）～23日（金）	6家族（26名）
7月23日（金）～24日（土）	6家族（23名）
7月24日（土）～25日（日）	6家族（27名）
7月25日（日）～26日（月）	3家族（10名）
7月26日（月）～27日（火）	1家族（3名）
7月27日（火）～28日（水）	
7月28日（水）～29日（木）	1家族（5名）
7月29日（木）～30日（金）	3家族（12名）

7月30日（金）～31日（土） 6家族（27名）  
 合計 37家族（147名）

② 日程

施設説明、テント設営説明、野外炊事説明（入所日）、テント撤収・物品返却（退所日）  
 以外は、基本自由時間としました。

【入所日】

時間	内容
適宜	受付 日程確認
14:30	事務室前集合 キャンプ村移動
15:00	はじまりの会 施設説明
15:30	テント設営 寝袋等貸出
16:00	野外炊事説明 食器等貸出

【継続日】

時間	内容
	終日 自由時間

【退所日】

時間	内容
9:00	テント撤収 食器・物品返却 本館移動
10:00	退所手続き

③ 活動の様子

【はじまりの会】



【はじまりの会】

キャンプ村での利用スケジュールを参加者に理解してもらうために、本館で受付が終わった家族は、キャンプ村に移動し、はじまりの会、入所オリエンテーションを行いました。はじまりの会では、スタッフ・参加者の自己紹介を行い、「みんなで助け合いキャンプを楽しもう」を合言葉に家族間交流が活性化するように確認を行いました。その結果、少人数で参加した家族や活動に困った家族に声かけをしたり手伝ったりする姿が多く見られました。

入所オリエンテーションでは、キャンプ村施設説明、日程説明、スタッフの役割、利用の約束、緊急時の対処方法などを説明し、参加者が不安にならないようにしました。

### 【テント設営】



### 【テント設営】

スタッフによるテントの張り方、片付け方の説明を聞いた参加者は、早速つどいの広場に集合して、テントの設営をはじめました。風で飛ばないように杭を打つ子、雨除けのフライシートを張る子、ポールをつなぐ子、寝袋を倉庫から運ぶ子など、小さい子供たちにも役割を与えながら家族で協力してテントを張っていました。「意外と簡単に張ることができました」「子供たちが手伝ってくれたので頼もしかったです」「困っていたらスタッフの方が手伝ってくれました」など、自分たちの力で張ることができた喜びを感じていました。参加者の中には、初めてテントを張った方や購入したばかりのテントを持参した家族もいて、次のキャンプにつながる体験ができました。

### 【野外炊事】



### 【野外炊事】

テントを設営したあとは、いよいよ各自が持参した食材を使った、夕食（次の日の朝食も含む）作りです。最初に、親子で協力してテーブルの準備を行いました。小さい子供たちも喜んでお手伝いをしていました。調理やかまど準備では、スタッフの安全指導のあと、親が見守る中、薪を割ったり、火をつけたり、食材を切ったりして料理を完成させました。「初めて野外で調理をしました」「薪割りや火付けは、最初怖かったけど、だんだん慣れて簡単になりました」「子供たちがよく手伝ってくれて助かりました」「仕事をたくさん任せました。頼もしく感じました」などの感想を聞くことができました。

### 【自由時間】



### 【自由時間】

基本的に、スタッフが参加者に関わるテント設営と、野外炊事の安全指導以外は、できる限り家族で自由に過ごす時間を増やすように努めました。持ってきた遊び道具で楽しんだり、昆虫採集を行ったり、焚火を囲んで団らんしたりするなど、親子で思い思いに触れ合い、楽しく過ごす様子が随所に見られました。

## (6) 評価

### ① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

## ② 参加者の声

- ・思った以上に暗かったです。明りのありがたさを体験できました。
- ・次回はサポート無しでテント泊をやりたいです。次もやりたいです。
- ・空き時間にこんな活動がしたいです。(沢登り、虫取り、キャンプファイヤー、ナイトウォーク、森探検、ピザづくり、ハンモック体験等)
- ・思ったよりも忙しかったです。時間がたりませんでした。
- ・何の準備もなくキャンプができて良かったです。
- ・他の家族と仲良くなれました。コミュニケーションがとれました。
- ・キャンプに躊躇していましたが、一步を踏み出せました。
- ・みんなで掃除をする時間があればよかったです。
- ・施設が整っていました。器具が揃っていました。

## (7) 成果と課題

### ① 成果

昨今のキャンプブームの影響もあり、延べ147名の参加がありました。参加者の満足度も一様に高く、活動に満足されていました。初参加の方が、今回の経験によりスキルアップが図られ、次回への参加意欲が高まったこと、複数回参加された方は、キャンプの見通しが持たれており、準備の手際がよく時間の有効活用が図られていたことは大きな成果です。今回は多くのスタッフがキャンプの支援にあたり、参加者の声を聞いたことで、その後の団体対応に役立てることができました。

### ② 課題

親子の関りを高める、家族間交流の機会を増やす、体験活動のノウハウを学んでもらうなど、キャンプを実施するときのスキルアップ講座などを設定する必要があります。

### ③ 今後の展望

日頃のキャンプ村の家族利用、キャンプの日を含めて当施設を複数回利用する家族も増えてきました。最初は、テント設営、料理の準備、道具の片付けなど時間のかかっていた活動が、やり方や見通しを持てたことで短時間に終わるようになりました。その結果、各家族にゆとりが生まれ、この時間の有効活用が利用満足感、リピート率の向上につながると考えます。「何をしたらいいの」と迷う家庭も多いです。また、休日も両親が勤務のため、母親(父親)のみの家庭、ひとり親家庭の参加も多く、子供の相手をしながらのキャンプは気苦労もたえません。その解消のため3つの方法を考えています。

まず、キャンプに精通した講師を招聘して、キャンプを楽しむ技能講座を定期的開催します。また、親子で楽しめる自然体験活動を具体的に紹介してもらいます。昨今、流行りの一人キャンプのノウハウを学ぶことも効果的だと考えます。

次に、家庭で取組めるアクティビティを増やし、ニーズにこたえられるようにアイデアを出していきたいと思えます。例えば、昆虫の森づくり、クラフト材料マップ、沢ガニ祭、蛍を見に行こう、星空を見よう、火付け体験、インスタウォークラリーなどを提案していきます。

最後に、組織化を図っていきます。キャンプ初心者、中級者、上級者に分け、初心者ターゲットに上記の取組を展開し、参加登録を行い他の利用者と区別します。手厚い指導、情報の提供などを行い、リピーターとなるまで支援していこうと考えています。